

『スマホを置いたその先に。』

Digital Guardians

(青森高校一学年)

DIGITAL_GUARDIANS AHS

目次

1.はじめに	p.1
2.オーストラリアのSNS禁止法とは	p.2
3.活動内容	p.2
4.オーストラリアの文化について	p.5
5.この活動での気づき	p.6
6.今後の動向	p.8
7.おわりに	p.8
8.資料	p.9

1.はじめに

○目的・経緯

情報化社会である現在、世界的に見てもほとんどの人が何らかのデジタル機器を持っており、SNSによるトラブルやルッキズムの加速が進んでいるため、固定観念に囚われて苦しんでいる人もいるだろう。特に、生まれた瞬間からデジタル機器に囲まれて育った“デジタル・ネイティブ”と呼ばれる現代の高校生以下の子どもたちの利用に対し懸念が深まっている。そんな中、2025年12月10日からオーストラリアで“16歳未満のSNS利用を禁止する”という驚きの法律が制定された。この法律が施行されたことによってSNSと若者の関係性はどのように変化していくのか。日本でもSNSによる問

題は日々起きている。オーストラリアで法律によってSNSの利用が制限された子どもたちに実際に会い、SNSとの向き合い方について学ぶ。

2.オーストラリアで施行された「SNS禁止法」とは？

前述の通り、2025年12月10日、オーストラリアで「16歳未満のSNS利用を禁止する」という法律が施行され、世界中に衝撃が走った。対象となるSNSは、X、Instagram、YouTube、TikTok、Facebook、Snapchatなど。

この法律の目的は重要な発達時期にある子どもをオンラインの有害コンテンツから守ることである。16歳未満がこの法律に違反しても子どもや親に責任や賠償は求められない。しかし、「対策を講じていない」としてプラットフォーム側に最大50億円の罰金を課し、責任を問うとしている。現在の年齢確認方法として、顔認証、公的書類(パスポートなど)のアップロードなどがある。この認証方法は、顔認証の場合は回避が容易(ペンで髭を書けば通れる)、公的書類のアップロードに対しては、「抵抗がある」「個人情報の流出、プライバシーの侵害が怖い」という声が非常に多く上がっている。(=インターネット上の匿名性が失われる。

オーストラリアでは、“Let Them Be Kids”という、「有害なコンテンツから子供を守り、SNS利用の最低年齢を16歳に引き上げる」ことを目指すキャンペーンを新聞各社や専門家、メディアが連携して行っている。

以上の内容を踏まえ、以下のレポートを読んでいただきたい。

○青森県内でのSNS規制法律についてのアンケート

法律が施行される前、青森高校内で行ったアンケートでは154人の回答を得ることができた。高校生のみ意見では偏った情報になってしまうと判断したため、スターバックス青森中央店にもアンケートの設置に協力してもらった。そこでは37人の回答を得ることができた。

「SNSをやっていて困った、直したい、よくないと感じる点」という項目で最も多かった意見は「時間が溶ける」というもの。また、「自分を律することができない」というSNSの依存中毒性に触れる意見もあった。

3.活動内容

2025年12月10日に法規制が始まるという点に着目し、法規制開始日の前後で、オーストラリアの人々の考え方や感じ方に変化があるのではないかと考えた。

そのため、12月10日以前に「第一回目の調査(オンライン)」を行い、

その後、12月10日以降に「第二回目の調査(現地)」を行った。

○事前調査(法施行前)

12/2(火):「リッチモンド農業高校」とのオンライン交流

12/4(木):「マンリー高校」とのオンライン交流

オーストラリア渡航前はオンラインで現地の高校とミーティングをした。

- ①交流先の学生を数グループに分ける。
- ②グループごとにワークシートに自分の意見を書いてもらう。
- ③各グループからそれぞれの質問について詳しい説明をしてもらう。
- ④提示してもらった意見に私たちの方から質問をしていく。

以上のようなプロセスで交流をした。交流を通して以下のようなことがわかった。

- ・オーストラリアの学生は1日に平均2時間未満の利用が主であった。
- ・規制に対しての意見は「意図は分かるが回避が容易で、実効性や個人情報流出に不安がある」というような声があった。
- ・「プラットフォーム側に責任がある」とする視点はオーストラリア特有のものだと感じた。

○現地調査(法施行後)

○フィールドワークの行程

- ・2/16(月)から2/21(土)の6日間で以下のような日程で現地調査を行った。

2/16(月)移動日

2/17(火)街頭インタビュー活動(~20日)、オペラハウス視察

2/18(水)リッチモンド農業高校訪問

2/19(木)聖グッドサマリタン高校訪問、シドニー動物園視察

2/20(金)マンリー高校訪問、セントメアリー大聖堂視察

2/21(土)移動日

○街頭インタビュー

質問が書かれている模造紙に、シールを貼って回答してもらおうという方法でインタビューを行った。質問は以下のとおりである。

1問目「この法律は誰のためになるか？」

→選択肢「子供・親・社会・誰の為でもない」

2問目「この法律についてどう思うか？」

→選択肢「とてもいい・いい・どちらともいえない・悪い・とても悪い」

i)回答

1問目は「子供」と答える人が最も多く、2問目は「どちらともいえない」が最も多かった。

ii)見えた世代間の差

(i)で“2問目は「どちらともいえない」が最も多かった”と記したが、このような結果になった背景として、このアンケートの回答者の約半数が20~40代の人々であった。これらの年代の人々は主に「どちらともいえない」と答えたために、(i)で記したような結果となった。

しかし10代~20代の回答に目を向けると、「悪い・とても悪い」と考える人が多かった。一方で40代以上の方々や、高齢者の方々は「とてもよい・よい」と回答する人が多かった。

○訪問校での調査

i)法律の満足度

訪れた高校の学生に対して、5段階評価のアンケートでSNS規制法の満足度について尋ねた。その結果は、平均2.3と低く、学生はこの法律についてよく思っていないことが窺えた。

ii)現地の学生が感じる法律のメリット・デメリット

○メリット

→不適切な情報、危険な人物、有害な会話、嫌がらせ、長時間利用などから子供たちを守ることが可能であること。

○デメリット

→法律の回避が容易であり、規制による効果が明確に見られないということ。

iii)法律施行後の変化

法律が施行されたことにより「メンタル面や生活面で変わったことはあったか」と尋ねた。

16歳未満の子供からの意見は、

「まだSNSを使っているの、あまり変化は感じない。」

「親も公認しているし、友達もみんな使っている。」

などの声がほとんどで、劇的な変化はないようであった。

iv)新たな法律を作るなら？～現地の学生の考え～

法規制の対象となった現地の学生自身が法律を作ることで、新たな気付きを得られるのではないかと考えた。そのため、以下の流れでワークショップのような活動を行った。

①交流先の学生を数グループに分ける。

②グループごとに、紙に具体的な法律案やルールを理由とともに記述させる。

③グループごとに全体発表をし、意見の内容を深める。

④個人で良いと思ったチームの法律案にシールを用いて投票をする。

結果として、様々な意見が出たものの、どの法律案においても何らかの形でSNS規制・制限を行い、それは一方的な規制ではなく、対象者の生活に合わせられた現実的なものであるべきであるというような内容だった。

○アンバサダー活動

i)青森の紹介

プレゼンテーションで青森高校のことや、今年の青森の異常気象により高く積もった雪について紹介した。シドニーは雪が全く降らないので、現地の学生は写真を見てとても驚いた様子だった。

ii)青森のお土産

より青森の魅力を身近に感じてもらうべく、青森土産として「りんごキャラメル」や「リンゴ味のハイチュウ」「源たれ味のスナック」「南部せんべい」をプレゼントした。

オーストラリアのお菓子とは一風違ったもので、学生に興味を持ってもらった。

iii)折り紙金魚ねぶた作り

青森といえば、夏のねぶた祭りだろう。現地の学校では、ねぶた祭りについてスライドで説明し、山車の大きさなどについて触れ、とても迫力あるものだと言った。その後、実際に現地の生徒と一緒に折り紙で簡易的な金魚ねぶたを製作した。折り紙で風船を作り、お花紙でひれをつけ、シールで飾り付けをした。交流先の学生全員が楽しそうに制作に取り組んでおり、制作中も身近な話題とともにコミュニケーションを取ることができた。そして、金魚ねぶたを通じて青森の文化を知ってもらい青森に親しみを持ってもらった。

○エバンジェリスト活動

これまでの活動から得た経験をもとに私達は以下のような活動を行った。

- ①青森市内中学校での講演会の実施
- ②青森高校内での講演会の実施
- ③Digital Guardians公式Instagramでの情報発信
- ④オリジナル啓発ソングの制作

①青森市内中学校での講演会の実施

2/27(金)青森市立青森南中学校

3/3(火)青森市立西中学校

3/10(火)青森市立浪打中学校　　の計3校で講演を行った。

中学校での講演を行った主な目的としては、日本での中学生は13歳～15歳であり、この年代の期間をオーストラリアで過ごすのであれば、規制の対象となるからだ。

「もし、自分がオーストラリアに住んでいたら」というように自分事として捉えてもらい、これからの自分のSNSの使い方を見直すきっかけになるように講演を進めた。

②青森高校内での講演会の実施

3/19(木)に青森高校1学年を対象として講演会を行った。SNS利用が法規制されるという話題をメインテーマにはせず、「SNSの適切な利用方法とはどのようなものか」を主題として講演を進めた。

③Instagramでの発信

- ・Digital Guardiansの全活動に関するフィード投稿・リール動画での発信。
- ・オーストラリアの法律についての解説動画や投稿。

④オリジナル啓発ソングの制作とInstagramへの投稿

私たちはスマホにとらわれることで、目の前の人との出会い、時間を大切にできないことのもったいなさ、もっとリアルも愛することができるようにと啓発ソングを作った。作詞と手書きのミュージックビデオは私たちで制作し、作曲はSUNOというアプリを利用した。ポップにとらえてもらえるようラブソング風の曲調にし、自然に考え、そして自分事としてとらえてもらえるように工夫した。Instagramでは投稿1日目にもかかわらず1100回再生を記録した。

4.オーストラリアの文化について

①食文化

オーストラリアの学校では、「モーニングティー」という文化があることが分かった。日本ではよく「アフタヌーンティー」と聞くことがあるが、そのの午前バージョンだ。

訪問したリッチモンド農業高校と聖グッドサマリタン高校では、私たちを歓迎するという事でモーニングティーを用意して下さった。その中で興味を持ったのが、オーストラリアの伝統的なお菓子である【パブロバ】である。卵白と砂糖を泡立てたメレンゲを焼いて作るそうだ。パブロバの上にクリームとフルーツを乗せて食べた。とても甘く、日本ではあまりないタイプのお菓子だと感じた。モーニングティーの時間は学生と英語で会話をを行い、日本とオーストラリアの違いなどについて知ることができた。

②建物

文化面で最も驚いたことは、100年以上前の建物が壊れることなく当たり前に残っており、シドニーの町を形成していたことだ。私たちは最終日にセントメアリー大聖堂という200年前からある教会を訪れた。外壁に多少の汚れがあること以外、綺麗なままであった。オーストラリアは地震が全く起きないということからこのように昔に建てられた建物が綺麗な状態で残っているのだそう。地震大国の日本とは、首都圏という観点で見ると確かに違った街並みであった。ビルや近代的な建物もあるが、かなり前に建てられた建物が現在でもほとんど同じ状態で残っているという部分が日本と違う点だと思った。

③国民性

街頭インタビューなどで特に感じたのだが、オージー(オーストラリア人)はほとんど全員がフレンドリーで、調査に協力的だったことだ。また、ワーキングホリデー等でさまざまな国の人々が来ており、そのような人たちもそれぞれオーストラリアライフを自由に楽しんでいるようで、とても開放的な印象を受けた。自分のやりたいことに向かう姿勢がとても良いと感じた。

オーストラリアは公平なチャンスの国として知られるが、本当にその通りで、自分の夢に向かう積極的な人が多かった。

5. 今回の活動での気づき

○代表者二人より気づいたこと

i)

私は今回の調査を通して、多角的に物事を捉えることの大切さを実感した。SNSというツールは、それぞれの人によって異なる意味を持つ。オーストラリアがどのような議論を経てこの法律の制定に至ったのかを詳細に知ることはできないが、私にとってこの法律は、SNSのメリットを捨ててまで制定する必要があるほど、オーストラリアにおいてSNSに関する問題が深刻化していたのではないかと思わせるものであった。第一回交流会では、日本では長時間利用の傾向が問題視されていたのに対し、オーストラリアで問題視されていたのは利用時間ではなく、コンテンツの有害性そのものであった。現地の学生との交流を振り返ると、私たちの公式Instagramをフォローしてくれる生徒もいたが、彼女たちのプロフィールを見ると、全員が自分の自撮りをアイコンに設定しており、私生活を比較的公開しているアカウントであると感じた。日本でもInstagramはアカウントと個人との距離、すなわち匿名性が低いSNSではあるが、アイコンに拾い画、つまり自分で作成したものでない画像を設定する人も多い。この点から、日本はある程度の匿名性を保った、いわば仮面を被った状態で利用している人が多く、それが長時間利用につながりやすいのではないかと考えた。一方で、オーストラリアはアカウントと自己との距離が近く匿名性が低いため、利用時間以上にSNS上のコンテンツの危険性や、アカウントの乗っ取りといったリスクへの意識が高いのではないかと考え、ここに国民性の違いがあるのではないかと感じた。今回の法律の制定によって、第一回交流会で挙げられていた「SNSに居場所を見出していた人にとって、この法律は苦しみをもたらすのではないか。長時間SNSを利用していた友人が突然利用できなくなることに不安を感じる」という意見のとおり、実際に法施行後には、LGBTQ+の人々や過疎地域に暮らす人々が、自分と同じ思いを抱える人とのつながりや、友人との交流の機会が減少したと感じる事例も見られた。もちろんこのSNS規制によって良い点が生まれたのは事実です。SNS上にはこの法律によって息子がスマホではなく、家事の手伝いなどに時間を費やしてくれるようになったと言うようなポジティブな意見が見られるのも事実だ。しかし、SNS利用が全面禁止になった中でも抜け道を使って利用する人がいることで、いじめがより陰湿化し、そして相談しづ

らい状況になってしまったのではないかと言うような声も見られた。このことから、法律のように強い拘束力を持つ制度を決定する際には、物事を多角的に捉え、どのような問題が生じ得るのかを事前に予測し、その対処を考える姿勢が重要であると考えた。また、たとえすべてを事前に予測することが困難であったとしても、発生した問題に迅速に対応できる体制をあらかじめ整えておくことも不可欠であると気づいた。これから何かのリーダーに立つことがあれば、これらのことを意識して解決策を見つけられるようになりたい。

さらに今回のフィールドワークを通して、外国と私たちとの距離は想像していた以上に近いものであると実感した。オーストラリアは多文化社会であり、観光客である私たちに対して特別視するような視線は感じられず、そこはどこか青森で過ごしているかのような感覚にも思えた。近年でこそ外国人観光客は増加しているが、幼少期の私にとって、外国からの観光客はどこか珍しい存在であった。しかしオーストラリアではそのような感覚はなく、頭では「世界中の人々は同じ人間である」と理解していたものの、感覚的には異なる文化や人種を必要以上に特別視していたのではないかと思った。オーストラリアでは「特別」として扱われないからこそ、各々が自分自身の文化に自然な形で愛着を持ち、それがアイデンティティの一部として大切にされていると感じた。その経験を通して、私自身もまた、自分を形作る一要素としての地域や文化を見つめ直し、青森への愛着が一層深まった。

ii)

現地の16歳未満の生徒に「法律で規制されてから、実際にSNSを使わなくなったか？」と質問したところ、「今もSNSを使っている」と答える人が一定数いた。なんとなく予想はしていたものの、これほどまでにすり抜けられているのかと思った。確かに私たちも彼らの立場であれば同じことをする自信がある。

まだSNSに触れていない幼い子供にとっては16歳になるまで法律によりSNSが使えないのは当たり前、という認識になるため、長期的にみるといい政策なのかもしれない。しかし、オーストラリアの中学生の年代の子供たちにとって見れば、これまで普通にSNSを利用していたのに突然使用を禁止されてしまい、困惑している人がほとんどだ。すぐにSNSを使うのをやめられるか、と言われれば、自信をもってYESと答えられる人は多くないだろう。そんな先輩たちを見て、皆が法律をかいぐるようになっては元も子もないが。

また、この法律で懸念すべき点は、規制によってSNSが使えなかった子供たちは、16歳になってからでないと自分だけで情報の正誤について考える機会が生まれず、ということだ。テレビのニュースや新聞でいいじゃないか、という意見もあるだろうが、放送会社や新聞社もそれぞれ報じ方が違うため、例えば1つのものから情報を得るとなると、考えが偏ったり、視点が固定されてしまうかもしれない。

このことから、わたしたちはある1つの策を思いついた。企業は全面的に16歳未満の利用を禁止するのではなく、「書き込みのみを禁止する」という案だ。SNSのトラブルは書き込みの機能によって顔の知らない人との対話が始まったりすることが多い。特に小さい子は思ったことをそのまま口に出してしまうことから始まることも珍しくないだろう。16歳未満の書き込みを禁止することで大方考えのまとまった年代の書き込みのみになるため、子供も大人の意見を聞いて、自分自身で情報がデマではないか、などについて考える力が育っていくと思う。また、エバンジェリスト活動をする中で中学生が次のような案を提示してくれた。「ニンテンドースイッチのみまもり設定のように、SNSの利用時間を定め、時間になると強制終了する」という策だ。これはすでに日本でも多くの子供たちに遊ばれているニンテンドースイッチで実用化されている為、そう難しくはないだろう。

日本ではSNSの利用時間の多さが度々問題となっている。特に中学生や高校生の年頃はSNSに割く時間は一日の中でも勉強の次、もしくは最も多いという人もいるかもしれない。私たちが例外ではない。ではいったいこれが何を引き起こすのかというと、はじめの経緯で説明したうちの一つであるルッキズムの加速による自己嫌悪を含む自信喪失だ。SNSは自分の生活のほんの一部を自己満足のために投稿しているようなもので、そんなものに影響されて自分の人生を冷笑する人が増えていいのだろうか。SNSは決して悪いものではない。新たな考え方を手に入れたり、モチベーションを高めたりする場である。しかしその中で、「つらい」、「いやだ」と思っている人が居るのも事実だ。その人がSNSのせいで自分の人生を狭めて挑戦することを恐れているとしたら。それはあってはならないことだと思う。だから、「成長途中でまだ思考が未熟である子供たちの心を守る」という点で見ると、オーストラリアの法律はとても理にかなっているものではないだろうか。

今回オーストラリアへ行って得た最も良い学びは、何と言ってもSNSの存在意義とリスクのコントラストが明確になったことだ。実際に規制されている子どもから考えや思いを聞くことで、自分では気づかなかった視点を得られた。SNSは楽しさとリスクが表裏一体なのである。そこを再認識させられた。

6. 今後の動向

2026年3月、インドネシアでも16歳未満のSNS利用が禁止になる。また、ヨーロッパ各国、東南アジアなどでも法律制定に向けた動きが活発になってきた。

これらのことを踏まえ、日本も同様に子どものSNS規制に向けて検討を進めていこう。この法律の最適解はあるのだろうか。その国が持つ背景によって法案の内容は変化するだろう。

各国がオーストラリアの法律を軸とし、どのようにその内容を変化させていくのか、注目していきたい。

7. おわりに

本プロジェクトを通して初めて海外へ行くという貴重な経験ができ、知識や見聞を深めることができた。シドニーで出会った人々、見たもの、経験などは一生の財産である。この活動を通して、言語が違う人とコミュニケーションを取るための姿勢・積極性などが大事であると身に沁みて感じたとともに、新たな視点で物事を見れるようになった。新しく学んだことを強みにできるよう、これからの学校生活やその先へ活かしていきたい。

この調査を進めるにあたり、支援していただいた青森県、地域交通・連携課 人づくりグループの皆様、旅行会社の方々、先生方、調査の協力をしてくださったオーストラリアの皆様、青森高校の生徒など本プロジェクトに関わってくださった全ての方々に深く感謝申し上げます。貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。

8.資料

以下、成果報告会で使ったスライド・資料を掲載します。

スマホを置いたその先に

2026年3月23日

青森高校 Digital Guardians

導入① ~調査のきっかけ~

きっかけ①

「16歳未満のSNS規制」がオーストラリアで
始まるというニュースを見た。

きっかけ②

法規制の「前後」を「リアルタイム」で
調査してみたいと思った。

調査のきっかけ

若者ら増える内斜視

学力に差が出る？ スマホ

情報化社会で進む「貧しさ」

注意して

ネット上の書き込み

「歩きスマホ」痴漢被害続発

スマホのルール大人が手伝って



スマホ

トラブル懸念

許さない

スマホ運転

平日5時間超も睡眠障害の恐れ

ネット依存中高生51万人

厚労省推計

ネットのデマ 後絶たず

小学生の視力、過去最悪

調査のきっかけ

オーストラリア政府の子どもSNS禁止法案ポイント

- ◆重要な発達時期にある子どもをオンラインの有害コンテンツから保護するのが目的
- ◆交流サイト(SNS)の事業者に、16歳未満がアカウントを作成・保有するのを防ぐ合理的な措置を義務付ける。深刻な違反には最大約50億円の制裁金



オーストラリア首相 SNS運営会社に対応求める姿勢示す

2024年11月29日 21時56分

オーストラリア議会で、16歳未満の子どもがSNSを利用することを禁止する法案が可決されたことを受けて、アルバーニージー首相は「SNSの運営会社が社会的な責任を果たす

導入② ～調査の目的～

目的①

法規制前後の豪州の様子を比較して
SNS法規制の是非を調べる。

目的②

豪州で得た知見を青森県に還元する。
青森の中高生に SNS利用を見つめなおす機会を与える。

調査活動 ～法規制「前」～

「リッチモンドアグリカルチャー高校」と「マンリー高校」と交流。
「SNS規制前」の「思い・考え」を聞いた。



調査活動 ～ワークシートを利用した調査～

Worksheet

Greeting


We are high school students from Aomori Prefecture, which is located in northern Japan. We are conducting research on Australia's social media regulations for people under the age of 16. We are very much looking forward to talking with you. Although our time together will be short, we appreciate your cooperation.

QUESTION 1

Please fill in the table below with the amount of time each group member spends on social media.

[Daily SNS Usage (Weekend/Day off)]

Time Spent on SNS	Number of students
0 - 2 hours	5
2 - 4 hours	1
4 - 6 hours	
6 - 8 hours	
8 - 10 hours	
10+ hours	
Total	



QUESTION 2

Please tell us about any problems you experience when using social media. (For example: information overload, feeling discouraged when comparing yourself to others, or losing track of time.)

Feels like you're wasting time
Losing track of time

QUESTION 3

What are your thoughts on the social media regulations that will begin on December 10?

Mixed bag, people have different opinions
It doesn't really affect me, since I don't use it that much and I'm nearly 16 anyway
Digital Communication

QUESTION 4

What do you think is an appropriate attitude or way for young people to use social media.

Use it passively, mostly for information, or bit of entertainment
It's also important to check information is accurate

QUESTION 5

(Please choose one of the four options below and answer with your reason.)

1. What do you think are the advantages and disadvantages of social media?
2. Do you feel that if social media were taken away, your sense of belonging or your means of self-expression would also be taken away?
3. If you were the Prime Minister, would you create a law to regulate social media? If so, up to what age would the regulation apply?
4. Have you ever discussed social media regulation laws in conversations with your family?

No, as I don't use SNS a great deal so it wouldn't greatly affect me.
No, not really, but many of my friends might as they love posting, taking and posting.

○ If you have any other opinions, please let us know.

I don't think it will affect us much, it is mostly an inconvenience

Thank you for your responses!
We will make good use of your valuable opinions.

オンライン交流からわかったこと、感じた疑問

1. 利用実態： 1日2時間未満の補助的利用が主流で、依存より内容の質を懸念。
2. 主要課題： 人種差別、AIの誤情報、不適切コンテンツへの警戒感が強い。
3. 規制への本音： 意図は解るが回避が容易で、実効性や個人情報提出に不安。
4. 改善案： 利用者への一律禁止より、運営側の管理責任や親の関与を重視。
5. 日豪の差： 差別への敏感さや「プラットフォーム側の責任」を問う視点が特徴。

現地調査と活動

- ①アンバサダー活動
- ②訪問校調査
- ③街頭インタビュー
- ④SNS規制体験

①アンバサダー活動

- i)青森の紹介
- ii)青森からのお土産
- iii)折り紙金魚ねぶた作り

調査活動 ～アンバサダー活動～

i 青森県の紹介プレゼン



ii 青森からのお土産



調査活動 ～アンバサダー活動～

iii 折り紙金魚ねぶたの制作・配布



②訪問校調査

- i)法律の満足度
- ii)法律のメリットデメリット
- iii)法律後の変化
- iv)新たな法律を作るなら

調査活動 ～訪問校調査～

i 法律の満足度

No1.How satisfied are you overall with the new law?

法律の全体的な満足感

Dissatisfied  Satisfied

social media changed? What do you spend that time on now?

Examples: Playing video games / Reading / I still spend time on social media

SNS規制しても時間は変わらずに消費し続けています。

Nothing has changed, I still spend same time on social media.

No4.What do you think is the greatest benefit of the current social media regulations?あなたのお考えの今回のSNS規制の最大のメリット

It aims to improvemental health issues within the youth.

No5.What do you think is the biggest disadvantage of the current social media regulations?あなたのお考えの今回のSNS規制の最大のデメリット

It is ineffective, no difference has happened for people I know including myself.

Thank you for your participation.

平均 **2.3/5**

調査活動 ～訪問校調査～

ii 法律のメリット

No4.What do you think is the greatest benefit of the current social media regulations?あなたのお考えの今回のSNS規制の最大のメリット

It aims to improvemental health issues within the youth.

不適切な情報
危険な人物
有害な会話
嫌がらせ
長時間利用



No5.What do you think is the biggest disadvantage of the current social media regulations? あなたの考える今回の SNS規制の最も大きなデメリット

It is ineffective, no difference has happened for people I know including myself.

法律の回避が容易で 機能していない



- ・ 顔認証の精度の低さ
- ・ 罰金が子供にはない

調査活動 ～訪問校調査～

iii 法律後の自身の変化

No2.(Please answer this question if you are under 16.)

Have you experienced any improvement in your mental health since SNS regulations were implemented?メンタルヘルスは改善しましたか?



まだ使い続けているので変化は感じない。

No3.(Please answer this question if you are under 16.)

Since SNS regulations started, how has the time you spent on social media changed? What do you spend that time on now?

Examples: Playing video games / Reading / I still spend time on social media

SNSを利用していた時間を何をする時間へと変化しましたか。

Nothing has changed, I still spend same time on social media.

親も公認している友達もほとんど使ってる。

調査活動 ～訪問校調査～

iv 新たな法律を作るなら

【出てきた意見】

- ・SNSのアルゴリズムを改善し有害なコンテンツへの監視を強める
- ・運転免許証のようにテストを受けないと SNSの利用をできないようにする
- ・youtubekidsのような子供向けの SNSを作る
- ・もっと子供向けの気軽に相談できるカウンセリングを増やす



何らかの制限は求める声
現実的な範囲での制限であるという共通点

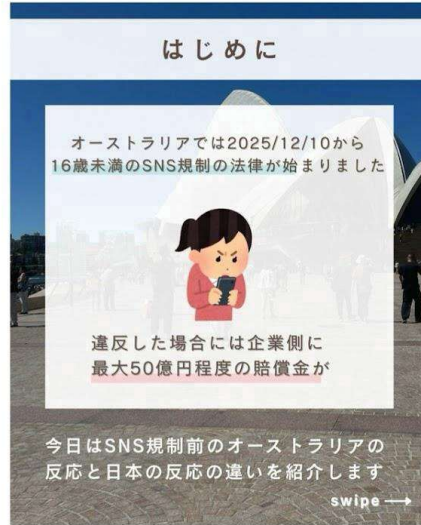
エバンジェリスト ～③Instagram発信～



エバンジェリスト ～③Instagram発信～



エバンジェリスト ～③Instagram発信～



エバンジェリスト ～④オリジナル啓発ソング～



課題の解決状況

オーストラリアで満16歳未満の子供はインターネットを使えないという法律が作られた事は知っていたけど、実際に現地の子供達はその法律を守っていない子がほとんどで、ルールや規則をただ作っても意味がないことを知って、インターネットがあるかないかのことを考えるのではなく、どう向き合うかが大切だということがわかりました。私達はこの世代に生まれてインターネットがある環境が当たり前で、関わりが深けど、インターネットなどの様々な問題があるのでそれに巻き込まれないようにこれから向き合っていきたいです。トラブル以外にも勉強もしっかりできるようにインターネットに向き合い、自分でルールを決まるなど、少しの制限は多少あったほうが良いと思うので、自分の人生を棒に振らないようにインターネットを自分の身になるようにうまく使っていきたいと考えました。

私たちの講演で「気づいたこと」「考えたこと」を教えてください。

826 件の回答

僕は最初、(スマートフォンなどのSNS関連のものを持っていないから)「関係のない話なのかな」と思っていました。ただ、これからの生活でも活かせるものだと聞き、「なぜそうなったのかを考えることも大事だな」と考えられました。

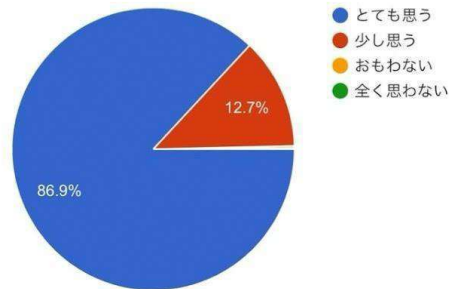
オーストラリアで新しくできた法律自体は知っていたけど、いま、オーストラリアの子どもたちが全然守っていないくて、法律が機能していないということを知ってよかったです。あと、顔認証の機能をもっと精密にすればもっと法律が機能するようになるのではないかなとおもいました。

課題の解決状況

私たちの講演で学びを得ることができましたか？

 [グラフをコピー](#)

826 件の回答



生徒対象のアンケートによる回答

○Digital Guardiasによる講演により気付いたことや考えたこと

【① SNS・スマホの使い方・向き合い方】

SNSは使うか使わないかではなく、どのように使うかが大切だという意見が多かった。使い方次第で便利にも危険にもなるため、自分で時間を決めたり、ルールを作ったりしてコントロールする必要がある。また、使いすぎると睡眠不足や生活への悪影響が出ることも理解されていた。

【② 禁止・規制に対する考え】

SNSの完全禁止は厳しく、現実的ではないという意見が多かった。禁止しても守られないことが多く、逆効果になる可能性もある。そのため、時間制限や条件付きの利用など、バランスの取れたルールが必要だと考えられている。

【③ オーストラリアの法律について】

オーストラリアでは16歳未満のSNS利用が禁止されているが、実際には多くの人が守っていないという現状に驚く声が多かった。顔認証などの仕組みも簡単に突破できることから、法律が十分に機能していないことが分かった。

【④ 法律・ルールのあり方】

法律やルールは、作るだけでは意味がなく、守られることが重要であるという意見が多かった。納得できない内容や現実に合わせていないルールは守られにくく、実効性が求められると考えられている。

【⑤ 個人の意識・自己管理】

最も重要なのは自分自身の意識であり、自分で考えてSNSと向き合うことが大切だと多くの人が感じている。親や法律に頼るだけでなく、自制心を持って使うことや、定期的に使い方を見直す必要がある。

【⑥ SNSの危険性】

SNSには依存や長時間利用、トラブルや犯罪への巻き込まれ、誹謗中傷などのリスクがある。また、一度投稿した内容が消えないなどの問題もあり、使い方には注意が必要であると認識されている。

【⑦ 改善策・提案】

完全禁止ではなく、時間制限やルール設定、家族との話し合いなどが有効な対策として挙げられた。また、年齢に応じたサービスの導入など、現実的で守りやすい仕組みづくりが必要だという意見もあった。

【⑧ 講演の感想】

講演は分かりやすく、実例やクイズがあり理解しやすかったという意見が多かった。また、現地調査に基づいた内容で、SNSについて自分ごととして考える良い機会になったと評価されている。

【全体まとめ】

SNSは単に禁止すれば解決する問題ではなく、どのように使い、どう向き合うかが重要であるという意見が多く見られた。今後は、個人の意識と適切なルールの両方が必要であると考えられる。

○16歳未満のSNS規制について考えたこと

【① 禁止は厳しすぎる・制限が適切】

最も多く見られたのは、SNSの完全禁止は厳しすぎるという意見であった。多くの人が、禁止ではなく時間制限や条件付きの利用など、適度なルールを設けることが重要であると考えている。また、SNSは使い方によって良くも悪くもなるため、一律に禁止するのではなく、適切に管理するべきだという意見が多かった。

【② SNSは生活に必要である】

SNSは連絡手段や情報収集、娯楽として日常生活に欠かせない存在であるという意見も多く見られた。特に、家族や友人との連絡手段として重要であり、現代社会においては必要不可欠なものだと認識されている。

【③ 法律・規制の実効性への疑問】

オーストラリアの事例を踏まえ、法律や規制があっても実際には守られていないという点に注目する意見が多かった。抜け道が存在し、簡単に規制を回避できることから、法律だけでは問題の解決にはならないと考えられている。

【④ 個人差を重視する考え】

SNSの利用については、人によって使い方やリテラシーが異なるため、一律に禁止するのは適切ではないという意見も見られた。適切に利用できる人もいるため、年齢だけで判断するのではなく、個人ごとに考えるべきだとされている。

【⑤ メリットとデメリットの両面】

SNSには利便性や学習面でのメリットがある一方で、依存やトラブルといったデメリットも存在する。そのため、どちらか一方に偏るのではなく、両方の側面を踏まえて判断する必要があるという意見が多かった。

【⑥ 禁止による逆効果】

SNSを禁止することで、かえって反発やストレスが生まれる可能性があるという意見もあった。特に、禁止されることで余計に利用したくなるなど、逆効果につながるものが指摘されている。

【⑦ SNSの教育的・成長的価値】

SNSは情報収集や学習、他者との交流を通して成長につながる側面もあるとする意見も見られた。そのため、単に危険なものとして排除するのではなく、有効に活用することが重要であると考えられている。

【⑧ 改善策・提案】

SNSの利用については、完全禁止ではなく、時間制限やフィルタリング、家庭内でのルール設定などの具体的な対策を行うべきだという意見が多かった。現実的で実行可能な方法を取り入れることが重要であるとされている。

【全体まとめ】

全体として、SNSの完全禁止に賛成する意見は少なく、適度な制限や使い方の工夫が必要であるという考えが主流であった。SNSは生活に必要な側面を持つ一方でリスクも伴うため、個人の意識と適切なルールの両立が重要であると考えられる。

教員対象のアンケートによる回答

○Digital Guardiansの発表の良かった点

【① 内容・テーマの良さ】

SNSという中学生にとって身近で関心の高いテーマを扱っていたため、多くの生徒が自分事として捉えながら聞くことができていた。また、日本とも関係のある「未成年のSNS規制」という話題から入り、オーストラリアでは法律が機能していないというギャップを提示したことで、聞き手を引き込む構成が高く評価されていた。

【② 発表内容の説得力】

実体験や現地調査に基づいた発表であったため、非常に説得力があり、理解しやすいという意見が多く見られた。自分たちの疑問を実際に現地で検証している点や、調査結果から考察までを一貫して示している点が評価されている。

【③ 構成・ストーリー性】

発表全体の流れが分かりやすく、導入から結論までの構成がしっかりしていたという評価が多かった。クイズや具体例、意外性のある展開などが盛り込まれており、最後まで飽きずに聞ける内容になっていたとされている。

【④ 参加型の発表】

一方的な説明ではなく、生徒に考えさせたり、話し合わせたり、発表させたりする時間が設けられていた点が高く評価されていた。聞き手が主体的に参加できる工夫により、理解が深まり、学びのある時間となっていたと考えられる。

【⑤ 話し方・態度】

きはきとした話し方や、聞き手の反応を見ながら進める姿勢が好印象であった。原稿に頼りすぎず、自分の言葉で伝えようとする姿や、熱意を持って語る様子も評価されている。また、声の大きさや聞きやすさ、スムーズな進行も良かったとされている。

【⑥ 聞き手との関係性】

高校生という中学生に近い立場からの発表であったため、親近感を持って受け止めやすく、より内容が伝わりやすかったという意見が見られた。先輩としての言葉やメッセージが、中学生にとって良い刺激や目標になったと評価されている。

【⑦ メッセージ性・影響力】

「自分で考えることの大切さ」や「SNSとの向き合い方」について深く考えさせる内容であり、多くの生徒にとって学びや気づきのある発表であったと評価されている。また、中学生の今後の行動や意識に影響を与えるようなメッセージ性の強さも評価されていた。

【⑧ 探究活動・行動力への評価】

自ら課題を設定し、海外でのフィールドワークを行い、その成果を発表している点に対して高い評価が寄せられていた。高校生としての行動力や探究心が、中学生にとって良いロールモデルとなっていたと考えられる。

【全体まとめ】

全体として、内容・構成・発表方法のいずれにおいても高い評価が多く、非常に完成度の高い発表であったといえる。特に、参加型の構成や実体験に基づく説得力、そして中学生に寄り添った伝え方が、聞き手に強い印象と学びを与えていた。

○Digital Guardiansの発表のフィードバック

【① 内容への評価(良かった点)】

全体として、発表内容や構成、取り組み姿勢に対する評価は非常に高かった。「分かりやすい」「引き込まれる」「興味深い」などの意見が多く見られ、企画やフィールドワークに対する努力や行動力にも高い評価が寄せられていた。また、中学生に考えさせる構成や参加型の発表形式も好評であった。

【② 内容面での改善点・要望】

オーストラリアの現地の声(子どもや大人の意見)や、高校生の考え、政府の見解など、より具体的で深い情報を求める意見が見られた。また、SNS規制の理由や背景についての説明をさらに加えることで、理解が深まるという指摘もあった。加えて、オーストラリアでの体験やフィールドワークの詳細について、もう少し聞きたいという声もあった。

【③ 発表の構成・進行】

話し合いの時間と説明の時間のバランスについての指摘があった。話し合いの時間が長すぎると集中力が切れる可能性があるため、時間を短く区切る工夫や、タイマーの活用などが提案されている。また、質問の意図を明確にすることや、問いの数を絞ることで、より効果的な進行になるという意見も見られた。

【④ 発表技術(話し方・伝え方)】

話すスピードが速くなる場面があり、聞き取りにくいという指摘があった。特に後半やまとめの部分で早口になる傾向が見られたため、落ち着いてゆっくり話すことが重要であるとされている。また、声の大きさや間の取り方を工夫することで、より伝わりやすくなるという意見もあった。

【⑤ スライド・視覚的工夫】

スライドの文字や画像が小さく、後方から見えにくいという指摘があった。また、重要なまとめやメッセージを視覚的に示すことで、より印象に残る発表になるという意見も見られた。タイマーの表示など、視覚的に進行をサポートする工夫も提案されている。

【⑥ 参加のさせ方・指名方法】

挙手による発表では一部の生徒に偏る傾向があるため、事前に指名する工夫や、学年ごとにバランスよく発言を促すことが必要であるという意見があった。また、より多くの生徒が主体的に参加できるような工夫が求められている。

【⑦ メッセージ性・まとめ方】

発表の中で「最終的に何を伝えたいのか」がやや分かりにくいという指摘があった。特に、法律が守られていないという事実だけで終わるのではなく、「自分たちで考えて行動することの重要性」など、前向きな結論に導くことが重要であるとされている。

【⑧ 運営・準備面】

マイク担当と質問者の役割分担を明確にすることで、よりスムーズな進行が可能になるという意見があった。また、配布資料があると振り返りに役立つという指摘や、時間配分の工夫(短縮案の準備など)の必要性も挙げられている。

【全体まとめ】

全体として発表の評価は非常に高く、内容・構成・取り組み姿勢のいずれも優れていると評価されていた。一方で、より分かりやすく、伝わりやすい発表にするためには、情報の具体性を高めること、時間配分や話し方の工夫、そして伝えたいメッセージを明確にすることが重要であると考えられる。